

特別展「大地のハンター展 ～陸の上にも4億年～」のご案内

大阪市立自然史博物館で開催の企画展について、ぜひ、貴メディアにて本展を報道・周知していただきたく、ご案内いたします。なお、広報用画像のご使用や招待券プレゼントを希望される場合は、本リリース最終ページにございます申請書に必要事項をご記入の上、広報事務局までご連絡ください。



2022年7月16日（土）～9月25日（日）

大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

（花と緑と自然の情報センター 2階）大阪市東住吉区長居公園1-23

気づいたときには食われてる！すごいハンター大集合！

陸に上がって4億年のうちに多様化したハンター（捕食者）。本展では、動物が生きていくために必要な営みである「捕食（捕らえて食べる）」に注目し、彼らの顎や歯、ハンティングテクニックなど、様々なハンターの起源と進化を紹介します。生態系におけるハンターの役割と重要性を解き明かし、ハンターが生きる自然の素晴らしさ、そして地球環境のこれからを考えます。国立科学博物館が誇る貴重なコレクションを中心に、大型のワニやヘビ、ネコ科の哺乳類、フクロウなどの鳥類、ハチなどの昆虫類をはじめとする多彩な標本展示で構成した科学展覧会の決定版です。

※国立科学博物館（東京・上野）で開催の同展（2021年3月9日～6月13日）とは、一部展示内容が異なります。

お問い合わせ先：「大地のハンター展」（大阪）広報事務局
株式会社ウイングダム 担当：多田、沼澤

TEL：03-5642-3767 FAX：03-3664-3833 e-mail：hunter-osaka@windam.co.jp
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 4F

本展のみどころ

※本リリースにて掲載の標本画像は、すべて国立科学博物館の所蔵品です。

1. 超大型から極小なものまでハンターが大集合！

絶滅したものから現生のものまで、哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、昆虫類が躍動！多彩な捕食者の姿を魅力的な標本展示で紹介します。

超大型のものとしては、白亜紀に生息していた巨大ワニ「デイノスクス」の実物大生体復元モデルを、最新の研究成果をもとに国立科学博物館の研究者による監修で制作し、本展で初公開いたします！デイノスクスは中生代白亜紀に生息し、恐竜も捕食していたとされる全長 12mにも達する大型ワニ類。強力な顎が生み出す噛む力は 1 cm²あたり 1600 kgともいわれます。

極小なものでは、血を吸うことでさまざまな伝染病を媒介しヒトを死にいたらしめる「蚊」や、これまで感染した十数例のうち大半が死亡例ながら生態が謎の寄生虫「芽殖孤虫(がしよこちゅう)」など、人類にとって最強のハンターも登場します。



デイノスクス 生体復元モデル



参考図版: アルバートサウルスを襲うデイノスクス
(©日経ナショナル ジオグラフィック)



イリエワニ 頭骨

2. 貴重で美しい標本の数々に驚嘆

ハワイの日系二世実業家が後半生をかけて集めた哺乳類の美しい剥製で名高いヨシモトコレクション、テレビの動物番組に出演し人気を博した動物学者・千石正一氏が国内外で採集した貴重な両生類・爬虫類標本の千石コレクションなど、非常に価値の高い標本を展示。戦前のフィリピンで活躍した博物学者・山村八重子氏が所蔵していた超大型の「イリエワニ」の頭骨には、捕獲の際の名残か3発の弾痕が残ります。国立科学博物館が所蔵する貴重な標本や協力機関が所蔵する重要標本が一堂に会し、ほかでは見ることのできない「捕食者の展示」が実現します！

3. 大人気のジャンルも勢ぞろい！画像や動画で、生の姿を伝えます

「ライオン」や「チーター」などネコ科の哺乳類、「ワシ」や「ハヤブサ」などの猛禽類、暗闇のハンターとしての能力を進化させた「フクロウ」の集合展示など、人気の高い動物標本が展示されます。また、大小さまざまな種類のワニの展示、特定の獲物しか狙わない偏食のハンター、毒使いのハンターなど、マニアックなテーマで切り分けた会場構成で、多様性に富んだハンターの姿を浮き彫りにします。さらに、それぞれの生き物の生態がよくわかる画像や映像もふんだんに展示します。



オオスズメバチ



ワシミミズク

展示構成

本展は4つの章で構成されます。

第1章「太古のハンター」

遠い昔に栄え、そして絶滅した生物の系譜を追いながら、ハンターの起源と進化に迫ります。節足動物と脊椎動物の顎の成り立ちの違いや、中生代に活躍した両生類・爬虫類、新生代の大地に栄えた哺乳類など、太古に活躍したハンターを、化石や骨格標本を通して紹介します。

太古のハンターというと大型肉食恐竜が思い浮かびますが、恐竜が常に生息環境の頂点にいた訳ではありません。本章では恐竜を食べていたと推定されるワニ類や哺乳類などにも焦点をあて、太古の地球の多様性を示します。ワニは約2億3000万年前の三畳紀に出現して以来、現生までほとんど形を変えずに水辺の生態系に君臨し続けているハンター。恐竜絶滅後の大地には哺乳類が繁栄しました。「爬虫類のような哺乳類」という意味の学名をもつ白亜紀最大の哺乳類「レペノマムス・ギガンティクス」は、鋭い前歯と強靱な顎で、恐竜の幼体も捕食していたとされています。「スミロドン」などがもつ大きな犬歯はハンターの強力な武器です。しかし実は犬歯の奥にある「裂肉歯(れつにくし)」の進化にこそ、肉食哺乳類のハンターが繁栄した答えが隠されています。



白亜紀の肉食の哺乳類
「レペノマムス・ギガンティクス」化石標本
(複製)

第2章「大地に生きるハンター」

本章では、さまざまな地球環境に順応している現生のハンターを展示します。「水辺」、「森・密林」、「草原」、「荒野(砂漠・岩場)」の4つの生息域ごとに代表的なハンターを紹介するほか、「おびき寄せ・待ち伏せテクニック」や「暗闇」などの切り口で、ハンターの特徴を解説します。

【水辺のハンター】

動物は生きるために必要な水を得るため水辺にやってきます。このため必然的に多くのハンターも水辺に集まります。水辺に君臨する「アメリカアリゲーター」の大型剥製や、巨大な「ヒグマ」、動かない鳥として人気の「ハンビロコウ」といった水辺でハンティングする動物を展示します。



ハンビロコウ

【森・密林のハンター】

陸地の3割を占める森・密林。森に潜み狩りを行う動物や、樹上に登り立体的に狩りを行う動物を紹介します。代表的なネコ科のハンターである「トラ」、群れで狩りをするので知られる「オオカミ」などのほか、立体的に活動する「オオアタマガメ」や「トビトカゲ」などの珍しい小動物も紹介します



オオカミ

【草原のハンター】

多くの草食獣が暮らす草原には、それを狙うハンターも多く生息しています。彼らの狩りの方法も多彩です。ネコ科では珍しく集団で狩りをする「ライオン」、腐肉食というイメージがついてしまったが実は狩りが得意な「ブチハイエナ」。また、人気のスピードスター「チーター」や、強力な毒をもつヘビ「ブラックマンバ」など、特徴的なハンターを紹介します。



ブチハイエナ

【荒野(砂漠・岩場)のハンター】

砂漠や岩場など厳しい環境にも獲物はいます。これらをつらぬくハンターは、厳しい環境に適した体をもっています。大きな耳をラジエーターとして砂漠に生息する「フェネック」、高地の寒さに耐える長い毛をもつ「マヌルネコ」、山岳地帯の急峻な崖をものともせず狩りを行う「ユキヒョウ」など、厳しい生息域で暮らすハンターが集まります。



マヌルネコ

【おびき寄せ・待ち伏せテクニック】

道具を使って獲物をおびき寄せるユニークな動物！おとりの昆虫を水に浮かべ餌となる魚をおびき寄せる「ササゴイ」、自らのピンク色の舌をミズのように動かして魚を捕らえる「ワニガメ」、地中に半身を隠してじっと獲物を待つ「ベルツノガエル」などのユニークな動物を展示します。



ベルツノガエル

【暗闇のハンター】

20種類以上の世界中のフクロウの標本を集めた特別展示。魚食、鳥類・哺乳類食、昆虫食など食性によって異なる狩りの特徴を解説します。日本に生息する世界最大級の「シマフクロウ」をはじめ、フクロウをまとめて見られる稀有な機会となります。他にも夜空を飛び回るコウモリや、実は貪欲なハンターであるモグラなど、個性的な暗闇のハンターを取り上げます。



シマフクロウ

第3章「ハンティングの技術」

ハンターは、獲物を狩るために最適な体の仕組みや技術を獲得、進化させてきました。特別な能力をもつハンター、特定の獲物しか狙わない「偏食」ハンター、「毒」を狩りに利用するハンターなどを取り上げ、その特徴を紹介します。

【偏食なハンター】

展示される主な標本

- ・アリ、シロアリを食べるために進化した口と舌を持つ「オオアリクイ」
- ・血、体液を吸うハンター
「蚊」、「タガメ」、「チスイコウモリ」など、血・体液を吸う動物を紹介

【毒使いのハンター】

展示される主な標本

- ・毒をもつ希少なトカゲ類で乾燥地に生息する「メキシコドクトカゲ」
- ・最近になって、毒をもっていることが判明した「コモドオオトカゲ」

【昆虫・節足動物コーナー】

展示される主な標本

《クモスペシャル》

クモ類の精緻で多様なハンティングテクニックを紹介！

- ・投げ縄のように糸を操る「マメイタイセキグモ」
- ・上顎付近から粘液を吐きかける「ユタカヤマシログモ」
- ・水中生活を行う唯一のクモ「ミズグモ」

《ハチスペシャル》

寄生バチや狩りバチなど多様化がもの凄いハチの世界を紹介！

- ・世界最大のスズメバチ「オオスズメバチ」
- ・とても長い産卵管を駆使し、樹木中のカミキリムシに捕食寄生する「ウmanoオバチ」
- ・ゴキブリに毒を打ち込みゾンビ化し巣穴へ誘う「エメラルドゴキブリバチ」

《カマ使いのハンター》

これぞ収斂進化！カマのような前脚をもつ動物集合！

- ・可憐な花に擬態「ハナカマキリ」
- ・「カマバチ」、「カマバエ」、「カマキリモドキ」、「ミズカマキリ」、「ザトウムシ」など、種をまたいでカマ使いのハンターを紹介



エメラルドゴキブリバチ



ハナカマキリ

第4章「フォーエバー・大地のハンター」

人間による思慮の無い活動のために数を減らしたハンター、逆に生息域を広げてしまったハンター。本章では、人間によって絶滅してしまったハンターと、外来のハンターを取り上げ、人間と地球の仲間たちとの持続可能なバランスある関係づくりに向けたメッセージを発信します。

【開催概要】

展覧会名:特別展「大地のハンター展 ～陸の上にも4億年～」

会期:2022年7月16日(土)～9月25日(日)

休館日:月曜日(祝休日の場合は開館し、翌平日休館。ただし8月1日・8日・15日は開館)

開館時間:午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで

会場:大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23

交通アクセス:

Osaka Metro御堂筋線「長居(ながい)」駅 南改札口3号出口から東へ約800m

JR阪和線「長居」駅 東出口から東へ約1km

近鉄南大阪線「矢田」駅 西へ約1.8km

大阪シティバス4系統、24系統「長居東」または「長居東2丁目」停留所

主催:大阪市立自然史博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪

特別協力:国立科学博物館

公式サイト:<https://www.tv-osaka.co.jp/event/huntersonland/>

問い合わせ先:大阪市総合コールセンター(なにわコール) TEL06-4301-7285 / FAX06-6373-3302

受付時間:午前8時から午後9時(年中無休)

観覧料:大人1,800円(1,600円)

高大生1,500円(1,300円)

小中生700円(500円)

※()は前売り料金

※未就学児は無料。

※高大生は要学生証。

※特別展入場料で、大阪市立自然史博物館常設展(当日限り)もご覧いただけます。

※障がい者手帳などをお持ちの方は無料(要証明書/介護者1名を含む)

【チケット情報】

発売日:2022年5月20日(金)10:00～

発売プレイガイド:チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス

店頭発売:ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、ミニストップ

ホームページ予約:チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス

販売期間:前売券 2022年5月20日(金)10:00から7月15日(金)23:59まで

当日券 2022年7月16日(土)0:00から9月25日(日)16:00まで

※今後の諸事情により、開館時間や休館日等について変更する場合がございます。最新情報は公式サイト等でご確認ください。

※本リリースに掲載の広報用画像や取材をご希望の場合は、下記までご連絡ください。

お問い合わせ先:「大地のハンター展」(大阪)広報事務局
株式会社ウイングダム 担当:多田、沼澤
TEL:03-5642-3767 FAX:03-3664-3833 e-mail:hunter-osaka@windam.co.jp
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F

特別展「大地のハンター展 ～陸の上にも4億年～」

1. 本展を記事・番組でご紹介頂けるでしょうか？ いつ頃の発売／発行・放送で、どのような内容ですか？

はい [月 日 発売／発行・放送 検討中 (月 日 頃 決定) いいえ

掲載面(ページ)、内容、番組名などをお知らせください。

(発行部数／ 放送エリア／)

2. 画像はご使用されますか？ プレスリリースをご参照の上、ご希望のデータに✓印をお付けください。

はい (データ到着希望日 月 日) いいえ、画像は掲載せず、文字のみで紹介する。

①メインビジュアル <input type="checkbox"/>	②ディノスクス 生体復元モデル <input type="checkbox"/>	③イリエワニ 頭骨 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	④ワシミズク 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>
⑤オオスズメバチ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑥「レベノマムス・ギガンテイクス」化石標本(複製) 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑦ハシビロコウ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑧オオカミ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>
⑨マヌルネコ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑩シマフクロウ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑪フチハイエナ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑫ベルツノガエル 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>
		【注意事項】 ・画像使用については広報物とクレジット(国立科学博物館蔵)をお付けください。 ・画像使用については別途用紙をFAX、メールでご送付ください。 ・ご紹介頂いた場合は掲載紙・誌を1部、または同録VTRを下記までお送りくださいますようお願いいたします。	
⑬エメラルドゴキブリバチ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>	⑭ハナカマキリ 国立科学博物館蔵 <input type="checkbox"/>		

3. 招待券の読者・視聴者プレゼント(5組10枚)を希望しますか？

希望する (月 日 までに必要) いいえ

貴社名・媒体名		ご担当者名	
部署名		TEL	
e-mail			
ご住所	〒 _____		

お問い合わせ先：「大地のハンター展」(大阪) 広報事務局

株式会社ウインダム 担当：多田、沼澤

TEL : 03-5642-3767 FAX : 03-3664-3833 e-mail : hunter-osaka@windam.co.jp

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F